

「文字の登場、そして広まり—古代中世の人と文字をめぐって—」展

(1) 趣旨

私たちは、生活の中で「文字」をどのように書き記しているでしょうか。また、「文字」を目にする機会は、どのような場合でしょうか。

近年、文字を取り巻く環境は以前と比べようもないほど、大きな変化が起こりました。「文字」を使った情報はインターネットの普及に伴い、迅速かつ広域に発信・受信することが可能となりました。また、「書く」という手段に加え、キーボードを用いて「入力する」こともできるようになりました。

そのような変化は私たちにとって「文字」がさらに身近で、使いやすいものになったといえるでしょう。しかし、その弊害として「氾濫」とも呼べる状況に陥ってしまったことも事実です。

今回は、過去における人と文字の関係を出土した文字資料から考察していきます。

私たちにとって、正しい形をなさない「文字」は意味を理解し合えず、使うことは許されません。けれども、表裏が逆になった逆字や文字の省略、記号状のものなど、現代人には「読む」ことの困難な文字が過去に使われ、一方で明瞭な「文字」も同時に存在していました。

現代に生きる私たちが、身近すぎて捉えにくくなってしまった文字との関わりを考える、よい機会となりました。



- (2) 会期 2001 (平成13) 年9月22日 (土) ~10月28日 (日)
開催日数32日間
- (3) 観覧料 一般 500円 (350円)、小中学生 250円 (150円)
() は20名以上団体料金および、かるちすとくらぶ料金
- (4) 会場 企画展示室、美術工芸展示室
- (5) 展示点数 432点
- (6) 関連事業

①ミュージアムフォーラム「古代の人々と文字」

(2001年9月30日、13:30~15:30/

会場：緑のホール/参加料無料)

講師：平川南氏 (国立歴史民俗博物館 教授)

(7) 図録

『文字の登場、そして広まり—古代中世の人と文字をめぐって—展』A4判 57頁

